

も たに

母谷たつりの後援会だより

平成14年(2002年)10月 Vol.10
 発行 母谷たつりの後援会
 編集 岡田 孝



市政報告

謹啓

21世紀2年目の今年、平成14年9月17日世界の歴史に残る大きな足跡が記されました。それは言うまでも無く、日本の総理大臣として初めて国交の無い「近くて遠い国」、北朝鮮(朝鮮民主主義人民共和国)を訪れたことであります。これまでの57年間、世界に閉ざされた謎の国として注目されている所へ政治の頂点に立つ者が国を代表してその地に足を踏み入れたのであります。

これまで金丸訪朝団や赤十字社を通じた公式、非公式の接触は幾度かありましたがそれまでとは比較にならないくらい日本にとっても世界にとっても重要且つ重大な1日であったと思います。

近年、アジアの平和と安定が急務とされていたところへ、昨年9月11日の米国同時中核多発テロが発生しました。今後、「テロ支援国家は敵とみなす」というアメリカの考えは国連の核査察受け入れを拒否し続け大量破壊兵器を量産し、核ミサイルの開発を続けるイラクや北朝鮮を悪の枢軸と呼んでいます。

また昨年末、日本海域を領海侵犯し、東シナ海における中国の排他的経済水域に逃げ込んで、銃撃戦の末沈没した不審船問題は10月5日北朝鮮の工作船と断定され、いくら平和ボケしている日本といえども北朝鮮という国と有事関連法案の問題を意識せずにはいられない状況になっています。

このような状況下、国交正常化交渉の再開をきっかけに永年の疑惑であった北朝鮮による日本人拉致疑惑問題の真相を、一気に解明しようと小泉首相自ら乗り込んだのであります。“拉致問題の解決なくして国交の正常化なし”というキャッチフレーズを合言葉に、強い信念と決意を持って臨んだトップ会談で金正日総書記の口から、日本人拉致疑惑との関連性を完全否定してきたこれまでの姿勢を一変させ、その関与をあっさりと認め、その安否について5人生存8人死亡という衝撃的な発表をいたしました。全く信用性に乏しい、疑わしい内容となってしまったのであります。加えて、後日訪朝した政府調査団の調べにおいても不可解な死亡原因報告や死亡診断書の生年月日が誤っているなど、信憑性に乏しい



世界遺産の厳島神社で今年10回目の冠水と突風に襲われた国宝の回廊

ずさんな内容が明らかになりました。

こうした状況のなか、警視庁の拉致認定者8件11人以外の行方不明者に対してもその疑惑が益々広がりを見せ、警察に相談や再調査を求めるケースが全国でおよそ100件に上り、10月8日には、4人を新たに拉致被害者として認定いたしました。又、10月15日には、生存を確認された5人が帰国するという画期的な一日となりましたが、これは問題解決の第一歩を踏み出したにすぎません。金総書記はこの問題を特殊機関の単独犯行と述べて自らの関与を否定していますがこの拉致問題を北朝鮮の犯行であると認めたこと自体が国家的犯罪であり、北朝鮮という国の性質上、権力の頂点に君臨する金総書記の責任は免れるものではなく、国際司法裁判所において弾劾されるべきものであると思います。行方不明者のさらなる真相究明と安否の確認は拉致被害者とその家族の皆さんの24年にもおよぶ思いを察すれば当然のことではありますが、日本が主体的、積極的にその主権を発揮する絶好のチャンスでもあることから、この問題については決して弱腰になることなく取り組まなければならないと思います。

このことが誠意ある進展又は解決をみない限り、官民間わず人道的支援も行うべきではないと思います。従って、拉致問題の真相解明と国交正常化の問題をごっちゃにして10月29日から始まる交渉の取引材料にしてはならないと思います。小泉首相の“拉致問題の解決なくして国交の正常化なし”とはまさにこの区分けをきちんとした上で話し合いができればどちらの問題も中途半端なものとなり、国民の期待する結果にはならないと言わねばなりません。第2次小泉改造内閣で官房副長官に再任された安倍晋三衆議院議員と防衛庁長官に任命された石破茂衆議院議員に大いなる期待をするのは私だけでありましょうか。私は、この二人が必ずや近い将来の日本を背負って立つ真のリーダーに育ってくれると確信しています。

さて、第3回広島市議会定例会は9月12日召集告示がなされ、9月19日、13日間の日程で開催されました。提出案件は予算案2件、条例案9件、その他の議案8件、および専決処分1件を含め20件が上程され48億4,163万5千円の補正予算が審議されました。なかでも来年2月の広島市長選挙を電磁式記録装置による投票方法とする条例案とそれに伴う導入費の1,128万円の補正予算は総務委員会や本会議で白熱した論戦が交わされ、賛成32、反対23、退席4により過半数の30票をわずかに2票上回っただけの可決となりました。

このような小差で可決という背景には、「高齢者に対して問題は無いのか」、「なぜ、同一の選挙で投票方法の違うやり方をするのか」、「8区のうち安芸区を選んだ理由は何か」、「機械や装置の信頼性はどのように担保するのか」、「現時点の公職選挙法ではこの制度による不在者投票ができないがどのように扱うのか」、「この制度による国の補助は将来も見込めるのか」など詳細な質問が続出しましたが市選挙管理委員会の明確な答弁が得られず、審議に相当の時間を要し、その信頼性や計画準備に疑義が数多くが生じたため反対票が思いのほか多い結果となりました。電子投票制度自体は、国家IT戦略などから避けて通れない問題ではありますが導入に当たっては慎重に計画を練り、あらゆるシミュレーションを実施し万全の体制で臨まなければ岡山県新見市について全国で2番目、政令指定都市では初めてという先進的な取り組みをアピールするだけでは不安が拭いきれないのであります。

「急いてはことを仕損じる」という格言もありますが大きな失敗や事故が無いことを祈ります。

朝晩はめっきり冷え込んで深い秋に向かっております。皆様方におかれましては、何卒お身体ご自愛の上お過ごしいただきますようお願いいたしております。

謹白
 広島市議会議員 母谷龍典

いい汗流そう!! いい笑顔つくろう!!

美鈴が丘タウンネット

URL <http://www.misuzu-town.net/menu.html>

今から、始めます

成熟社会のライフスタイルを背景に、21世紀の私たちを取り巻く様々な環境は決して住み心地の良いものばかりではありません。

環境問題や老人福祉・教育問題、プライバシー保護を中心としたセキュリティーの問題等、多種多様な問題が取りだされ各分野での解決策や方向性が模索されています。IT化の進みつつある現代社会においては、その糸口さえ見出せないでいるのが現状ではないでしょうか。

こうした時代にあって、これから一体どのような環境創りが有効なのでしょう。

社会の情勢は明らかにデジタル化・IT化へと移行しています。私たちを取り巻く環境もまたスピードを増しながら変化をしていますが、その速さに即応できないで毎日を過ごしています。とはいうものの、増え続ける余暇時間を自分らしく生きていくために、人々が真剣にその答えを求めていることも事実なのです。

この度、美鈴が丘では広島市の補助金を受けて少しでもこの美鈴が丘団地で安心して生活していける環境創造の役に立てたいと、企画いたしました。まだまだ立ち上げたばかりで内容が充分とは言えませんが皆様のアドバイスや御指導を得てより良いものとなるよう努力していきたいと思えます。

この企画では、携帯電話やコンピューターを使ってホームページを閲覧し、地域の皆様を一つの輪として、お年寄りから、小さなお子様まで皆で情報を共有し地域を守っていくシステムの構築を目指します。



例えば…

- 緊急に血液が必要になったり。
- お年寄りのSOS発信や自治体や学校の連絡網に活用したり。
- 美鈴が丘のイベント情報やニュースの配信。
- 掲示板・美鈴の観光マップやカルチャーのお知らせ。など…

必要な時に、必要な人だけに、必要なメールを一斉に送ることも可能になります。

GPSによる全国初のバスサポートシステムがサムエル幼稚園と山田幼稚園で始まっています。

わたしたちは、このような新システムを導入し、より安心して暮らせる美鈴が丘団地にするために、I・T（インフォメーション・テクノロジー）による「美鈴が丘タウンネット」の構築を進めます。

このシステムへの登録やお問い合わせは

美鈴モール商店会会長 黒岩 公明 さん 携帯 090-1010-9921 E-mail : kuroiwa@misuzu-town.net

美鈴が丘タウンネット Misuzugacka Town Net

美鈴が丘タウンネットの構造

「美鈴が丘タウンネット」は美鈴が丘の住民の方々がIT技術によって情報網の整備と構築を簡単な作業で可能にするシステムです。生活・教育・福祉・防災等、私たちの周辺で起こる毎日必要な情報がメールやホームページで確認したり、閲覧できます。学校からの連絡網や日程の閲覧・急遽変更になるスケジュールなど、スピードを要求する情報など、リアルタイムに全員が一斉に知ることが出来ます。このシステムは3重構造で構成されています。私たちがいつも使うものは、[①ホームページ]と[②連絡用メール配信]のシステムです。この中で一番重要なのは、緊急用の[③危機管理一斉送信]システムです。



ホームページ

このホームページはパソコンと携帯電話の両方で観ることができます。パソコンでは催事物や体育祭など写真入りで見たり、年間スケジュールなどが確認できます。携帯電話はデータ容量が少ないので情報が限られますが、その分リアルタイムに、いつ、何処でも情報を見る事が可能です。

各組織内連絡網メール配信

このシステムは、今までの電話リレーでの連絡網がありません。一斉にメールで配信することができますので、時間もかからず全員に一斉に連絡をすることが出来ます。それも送りたい人にだけメール送信しますので、ランダムに必要な無い人にはメール配信はしない、お約束メール配信システムです。

緊急時危機管理一斉メール配信

このシステムは、通常使用するものではなく、警察・消防・学校など、地域に危険（地震・火災・暴漢、等）が生じたときや、これから起こりうる危険に対し組織の垣根を越え地域住民に一斉メールが配信されるものです。実際には稼働してほしくないシステムなのですが、万一の危険を地域全体としてとらえて対応するシステムです。